海上の森講座

海上の森の意義、里山発見（現地実習）

日時：平成２２年７月２４日（土）　１０：００～１５：００
講師：特定非営利活動法人　海上の森の会

概況

・海上の森について

海上の森周辺には、縄文時代から人々が生活しており、平安時代には生業としての製陶が成立していたとされ、雑木を燃料としながら、その燃料を使い尽くすと新しい土地に移動して生産していた。明治時代には樹木がほとんどなくなり禿山となったが、植林を行って戦後豊かな雑木林となった。

1990 年に愛知万博の候補地となるが、シデコブシやオオタカなどへの影響を心配して大規模な反対運動が行われた結果、万博の主会場は愛知青少年公園となり、海上の森は、自然自体を展示物とし市民参加企画をコンセプトとした小規模な瀬戸会場となった。

・愛知万博の理念と成果

「自然の叡智」を理念とした愛知万博の成果としては、「21 世紀の新しい博覧会のモデルを提示」、「地球環境にどう向き合っていくか考える機会の提供」、「国際交流、地球社会において自らの地域での役割再認識の機会創出」、「新しい産業・技術の創出」、「地域の交流拠点性の向上、次代を担う子どもたちの啓発」があげられる。

・あいち海上の森センターについて

平成 18 年 4 月にあいち海上の森条例が施行され、同年 9 月 25 日に愛知万博記念の森として海上の森を将来にわたり保全すること、県民参加のもとに森林や里山に関する学習と交流の拠点として「あいち海上の森センター」がオープンした。海上の森センターでは体験学習や自然環境調査、里山保全などの事業とともに、万博継

承事業として「あいち海上の森大学」及び「人と自然の共生国際フォーラム」を開催している。

・里山について
　里山とは、元来は人里近くの薪や炭を得る農用林のことであったが、現在は、農用林のほか、田畑や草地、そして人の住む家を含む農村環境全体を指す言葉。里山は、自然環境の多様性と連続性を備え、生物多様性の宝庫である。今、里山文化や自然に対する価値観が見直され、再認識されつつあり、多様な主体の連携・協働による里山再生が求められている。

・幼児森林体験フィールドについて
原体験として五感を使った森林体験活動を行うことで、将来にわたって森林を守り育てる人材を育て、幼児教育の場として森林の新たな利用方法を普及啓発することを目的としている。

◎里山発見（現地実習）
2 時間弱かけて海上の森内を回り、現状の植生を確認し、林内の植生構成と地形地質との関連について実感した。湿地では雌雄のハッチョウトンボに出会えた。